



だより



R6.7.2 Vol.13

「日焼け止め持ってきていいですか？」

6月だったでしょうか？ある女の子が私にこう聞いてきました。「全然いいよ。でもプールにその油が浮いてしまったりしない？それはあまりよくないかな？」「それは気をつけます。」こんなやり取りだったかと思います。これは校則だったわけではありませんが、「**ブラック校則**」という言葉が巷を賑わすようになって久しいですね。確かに学校には事細かな規則がありました。しかし、それは「規則で縛る」というより、嫌な思いをする子供がいないように、家庭に負担をかけないようにという意味合いもありました。ただそこには「管理しやすいように！」という思惑もあったのだと思います。(丸刈り等、戦前・戦中教育の名残ですね。)

しかし、全てが管理されている中では、子供の自立心は育ちません。私は、**自分が気づいて、考えて(判断して)、行動できる子供を育てたい**と思っています。とは言っても、小学校という発達段階で全てを子供に丸投げするのは時期尚早です。少しずつ「自分たちで考える！」という機会を作っていきたい。子供たちから出てきた疑問や希望は遠慮なく言ってほしいと思っています。「なぜそう思ったのか、これからどうしたいのか、それをすることのメリット・デメリットは何か。」それをしっかり考えて、行動してほしい。もちろん、命に関わることや人の心を踏みにじるようなことは、「**ならぬものはならぬ**」と指導することもあります。

私は子供にも職員にも簡単に諦めてほしくないと思っています。「どうせ言ったところで何も変わらんし…。」「すぐきまりでダメって言われるし…」そんな雰囲気が充満した環境では、子供も大人も育たない。『おかし！変だ！』と思うことにはしっかり声を上げる！自分たちが変えていく。そんな気概を私は応援したいと思っています。もちろん、対話を重ねながら、みんなが納得できるものを求めていきたいですね。

四方山話真穴 ver. 其の十三(なぜ学ぶのか？)

教員になって35年。校長になって3年目。ずっと私の頭の中をぐるぐる回り続けている問いです。特に校長になってからは、学校の舵取り役として、どの方向に進んでいくのか？舵取りを間違うと大変です。より一層考えるようになりました。

もちろん、その年月の中で、時代が変わり、社会も変わってきていますから、その問いの答えも少しずつ変化しています。でもその中で、『**変わらない答えはないのか？**』ずっとそれを求めている気がします。「いい学校に入学して、いい会社に就職する。」私が子供の頃はおそらく社会全体が何となくこの価値に向かって進んでいました。今も「勝ち組、負け組」という言葉がこの価値の名残を感じさせます。しかし、私たち教育者(大人)は子供たちを勝ち組にするためだけに教育をしているのでしょうか？勝ちがあれば必ず負けがあります。負けることでの成長もあります。勝負を求める世界はあって然りだと思えます。が、勝ちを求めるだけの教育はあまりにも、裏寒い。

私は学ぶ理由は大きく二つあると思っています。一つは**豊かな人生にするため！**金銭的なことではありません。(もちろんそれも必要です。)例えば真穴は海がとてもきれいですよね。きれいという言葉を知らなくても、おそらく本能的にそれを人間は感じていると思っています。言葉を知ること、それを人に伝えることができる。他にも美しい、神々しい、猛々しい等々。様々な言葉で表すことができることを学びの中で知るでしょう。伝えることで出会いや関わりが生まれます。人との出会いや関わりも学びであるとするなら、一人で見た海、家族と見た海、友達と見た海、恋人と見た海、伴侶と見た海、新しい命を授かって見た海、大切な人を亡くして見た海。そんな経験という学びが海の景色をより一層深く、豊かなものにしてくれるのではないのでしょうか。海を例にあげましたが、全てのものを豊かに感じるができる。そんな感性を育てることが学びの意味の一つだと思っています。二つ目は**欲望を実現するため！**おっと！いきなり下世話な話になりそうですね(笑)紙面が尽きました。また次号で…。